

金沢大学附属図書館創作短歌フェス2025

・投票者からのコメントのあった作品及び作品に対するコメントを掲載しています。

作品	コメント
「また明日」たった五文字が愛おしい記憶に残るは花火より君	相手のことしか覚えていないというところに共感 今も昔も若者の感覚は同じですね。
マイクする動機をくれたあの人は今日も素顔で笑いこける	素顔っていうのはマイクの対比であるとともに、飾らない表情を見せてくれるってことでしょうか。「あの人」を見つめる視線やその感情、関係性が想像できてとても好きです。 切なさを感じる 「マイクをする私」と「すっぴんのまま『笑いこけてる』あの人」という対比が好きです。「笑いこけてる」というワードチョイスが絶妙だと思います。軽やかさがありつつ、「あの人」に対する少しうらめしい気持ちも垣間見える気がします。
「何時から参加します」の通知見る忙殺の対極にいる僕	私も「対極にいる」側の人間なのでめちゃくちゃわかります。「何に」参加するのか明示されていないことで、より多くの人の共感を呼べるようになっているのもいいと思います。 どこか申し訳なく思ってしまうのは、私だけでしょうか？
ふと君のこと嫌になる音楽の途中に挟まる広告みたく	広告が挟まるタイミングと相手に嫌気がさすタイミング、いいところで不意に迎える点が似ていると気づかされました。その世界に陶酔しているともいえます。 YouTubeでしょうか。上手い比喩だと思います。
長すぎる信号待ちにこの街ごとぶち壊れろと思う金曜	金曜日って華金と言われるほど他の曜日に比べればウキウキしていそうなのに、信号待ちの長さで街をぶっ壊すぐらいイライラしているのが面白かったです。
この世界変えてみせようささやかな野望抱いて買う赤い傘	「この世界」にさまざまな意味を重ねる余地があるのが良い。中盤の「変えてみせようささやかな」はひらがなが多く柔らかい印象があり、希望や活力を感じさせる。
あの言葉あの表情あの声も神様どうか忘れさせないで	あの人、が恋人なのか家族なのか自分に置き換えて浸れるのがいいと思った
教室で弾けんばかりの高い声自分の顔に焦りと笑みが	教室で繰り広げられるは恋愛話でしょうか？それとも就活などの進路の話でしょうか？相手の話を傾聴し、感情を共有することに喜びを感じる一方で、ふと焦燥が襲ってきます。
今日もまた何もできずにスマホ置く見上げる先に翳る満月	満月に浮かぶは、いつか描いた未来の自分か、それとも輝かしい朋輩の姿か。いずれにせよ、今の自分は光から遠ざかっているのだと、自己嫌悪に陥ります。
まだかなあそわそわと待つ二人前今年の鍋は初めての味	鍋を待つ高揚感が伝わってきます
「あ」の一宇予測されてる一言目想い込もらぬ感謝の五文字	予測変換を「想い込もらぬ」と表現するのが、最近就活等で事務的なメールを書く機会の多い私に刺さりました。ラインでも予測変換に頼りっぱなしだなあと思うとともに、言葉の重さについて少し考えてしまいます。 いろいろと考えさせられました。社交辞令の挨拶もそうですが、予測変換の積み重ねともいえる文章に、一体どれだけの想いがこめられているのでしょうか？
旧字体弾くシステム何様だ人の名前を『?』にするな	旧字体の表示に対応できないものに対する憤りがひしひしと伝わってきます。
「眼の裏を見せて私も見せるから」「メガネのレンズも交換しなきゃ」	メガネのレンズも交換しなきゃがいい 眼の裏を見せ合うという不思議で不可解な行為に続くのが、メガネのレンズを交換するという事務的、義務的な作業なのが、意外性があっておもしろいと思います。

金沢大学附属図書館創作短歌フェス2025

・投票者からのコメントのあった作品及び作品に対するコメントを掲載しています。

作品	コメント
待ちわびて深く吸い込む星月夜胸の奥にてバチバチと鳴る	何がバチバチと鳴っているのか気になります
使用済み電池が並ぶ棚の上一人暮らしの弾薬庫かな	一つの現象を切り取った素朴な歌だが、それ自体のリアリティもさることながら「弾薬庫」のインパクトがすさまじい。一人暮らし、という若さを感じる言葉からその弾薬庫が出て来て、「かな」で結ぶという緩急が印象的。
居眠りを始めた瞳の弧に触れる花ぎれみたいにきれいな半円	瞼のカーブを弧と表現しているのが面白くていいなと思いました。
君の首元で眠った南京錠首飾りの鍵は僕が飲んだ	飲んだという表現がいい
卒論のテーマさえまだ決まらないのに社会は「ガクチカ」だとか	ごもっともです。「ガクチカ」、本当に何もない・・・
「初めてのお酒は親と飲むから」とじゃあ私が今から君を産む	現代オタク的感性が恋心に昇華されている 君を産むがいい
木枯らしがメタセコイアと顔なでる紅葉とともに赤くなる頬	総合教育棟の前の雰囲気ですね
オリオンの3つの星を奪い取りGPAの足しにしてやる	金沢大学にいると、澄んだ空と星の輝きにハッとしています。この時期は特にオリオン座の3点がとてもくっきり見えるのですが、それが「GPAの足し」というロマンも何もない願いに重ねられていて笑ってしまいました。 勢いがいい。「奪い取り」という表現も野心を感じさせます。 「オリオンの3つの星を奪い取る」なんて大胆で壮大な上の句！奪い取ってどうするの？と思ったところに「GPAの足しにしてやる」というなんとなく拍子抜けするような滑稽さ。上の句の規模感に対する下の句の飛躍が最高です。でもGPAって大事ですからね。大学生だからこそ共感できます。
祖母卒寿あと七十年生きてくれおれが死ぬまで祖母でいてくれ	人の温かさを感じる 祖母側の気持ちで読み、感動しています
役立たずなときも静かに微笑んで箸置きみたいな人になりたい	ただそこにいるだけで少し華やかになるもの、ちょっとした楽しみになるものとしての「箸置き」。なるほどなあと思うとともに、その人自身の生活が見える気がしてとてもよいです。「役立たず」という厳しい言葉をすることで歌の穏やかさが引き立てられていて、雰囲気も好き。 謙虚で素直で作った人の人柄がよく現れていると感じました。私もそんなふうな歌を詠める人になりたいなと思います。 「箸置きみたいな人になりたい」という下の句が大好きです。箸置きって決して主役ではないけれどあるとちょっと嬉しくて、丁寧に生きようと思えるようなものですね。詠み手の方の優しくて暖かい愛が溢れ出ていると思います。 「箸置きみたいな人」というのが面白い。 私も箸置きが好きです
22時重たい足で地面打ち駆ける家路は月面のごと	疲労や不安を、進むエネルギーに変える描写に「月面」を持ち出すこと、暗く影ばかりある家路の描写と重なってとても素敵だと思いました。
「暖房は？」 「もったいないからつけないよ」「じゃあもうちょっと近くに来てよ」	「じゃあもうちょっと近くに来てよ」って意地悪で可愛すぎませんか。なんかお互い駆け引きしてるみたいな関係性を勝手に想像しました。

金沢大学附属図書館創作短歌フェス2025

- ・投票者からのコメントのあった作品及び作品に対するコメントを掲載しています。

金沢大学附属図書館創作短歌フェス2025

- 投票者からのコメントのあった作品及び作品に対するコメントを掲載しています。

作品	コメント
レジを終えベージュの手提げに入る柿人だかりから見つけるあなた	情景が自然に浮かんできました。ベージュの中に沈む柿は色合いがとても綺麗で可愛らしいと思いました。
バス代に文句たれつつ右手には季節限定ほうじ茶ラテ（¥400）	（¥400）の表記がかわいらしい。物価高もあって日頃ケチケチしていても、ご褒美にはつい出費してしまうこと、よくわかります。 あるある。ご褒美です
秋の日に楽しみたいはもみじ狩りなれば優先すべき熊狩り	クマも生きるために必死なのだと同情しますが、市街地にまでクマが出没するようでは、もみじ狩りなど恐ろしくて、できたものではありません！
駄菓子屋で小銭使わすその母はブランドバッグ通販で買う	風刺的で好きです。駄菓子屋だったら千円札1枚で両手から溢れるくらいのお菓子を買えるのに、母親は「小銭」を使わせる。そして母親は私欲を満たすための「ブランドバッグ」を買う。なかなか想像では詠めない、実際にこういう場面に遭遇しないと詠めない短歌だと思います。